

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H03920

研究課題名(和文) 医師・市民を対象とした医師・製薬企業関係に関する調査研究

研究課題名(英文) The surveys of physicians and the public on physician-pharmaceutical industry relationships in Japan

研究代表者

向原 圭 (Mukohara, Kei)

久留米大学・その他部局等・准教授

研究者番号：90531947

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,200,000円

研究成果の概要(和文)：医師調査では、2008年から2021年の間で医師・製薬企業関係の頻度は減少していたこと、医師の態度には大きな変化は認めなかったことが明らかになった。医薬品情報担当者との面会を禁止する規則の存在は医師の批判的態度と関連していることが明らかになった。市民調査では、医師と比較して製薬企業からのギフトに対して許容的であるが、ギフトは医師の処方行動に影響を与えていること、医師がギフトを受け取っていると考えている市民は医師に対する信頼度が低いことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
社会的問題として様々な議論がある医師・製薬企業関係に関して科学的な問いを立て、客観的データを得ることができた。医師調査の結果からは、医師の態度の変容が起きるには規制や規則などの外発的動機付けが必要であることが示唆された。市民調査からの結果からは、医師が一般市民や患者からの信頼を維持するためには、一般市民や患者の視点を認識し、製薬企業との適切な関係を考えていくことが重要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：In a physician survey, it was revealed that the frequency of doctor-pharmaceutical company interactions decreased between 2008 and 2021, with no significant changes observed in doctors' attitudes. The presence of rules banning meetings with pharmaceutical representatives was found to be associated with a more critical attitude among physicians. In a public survey, it was found that the public is more accepting of gifts from pharmaceutical companies compared to physicians, but they believe that such gifts can influence doctors' prescribing behavior. Moreover, those who believe that doctors accept these gifts have less trust in physicians.

研究分野：医学教育

キーワード：医師・製薬企業関係 利益相反 調査研究 一般市民

1. 研究開始当初の背景

我々が2008年に行った医師・製薬企業関係に関する全国調査では殆どの医師が医薬品情報提供者(MR)と話をし、贈り物を受けていた。そして殆どの医師が製薬企業との関係の多くは適切であり、許容できると考えていた。その後、ディオバン事件に代表されるように医師・製薬企業関係が社会的問題として注目を集め、日本製薬工業協会はMRが医師と関わる際のプロモーションコードを2013年に定めた。このプロモーションコードでは教育的でない物品の医師への提供が禁止された。

更に2020年のCOVID-19パンデミックにより医師と製薬企業社員が対面で会う機会が制限された。前回の2008年の調査からおよそ10年間が経過した現在、医師・製薬企業関係がどのように変化したか不明瞭である。

一方、医師・製薬企業の不適切な関係により、一般市民・患者からの医師への信頼が失われるリスクが存在する。我々のグループが以前行った医師を対象とした質的研究においては、医師・製薬企業関係に対する患者の視点を考えることにより、自身の製薬企業との関係を見直すことが示唆された。

我が国において一般市民・患者の医師・製薬企業との関係についての意識及びその意識と医師に対する信頼との関連性を検証した大規模研究は我々が知る限り存在しない。また、医師と市民との間に医師・製薬企業関係に対する許容度の差異が存在するかについても不明瞭である。

本研究では、2008年の調査からおよそ10年後、医師・製薬企業関係の実際と関係に対する医師の許容度、関係に対する市民の認識度と許容度および市民の認識度と医師への信頼度の関連性、そして医師と市民との間の許容度の差異について検証する。

2. 研究の目的

本研究では、以下の3つの問いに対する答えを明らかにすることで我が国の医師・製薬企業関係についての客観的データを提供し、適切な関係の構築に貢献することを目的とした。

- (1) 医師調査：医師・製薬企業関係の実際と関係に対する医師の許容度に2008年から変化があったか
- (2) 市民調査：医師・製薬企業関係に対する市民の認識度・許容度はどの程度か、関係に対する認識度と医師への信頼度との関連性はあるか
- (3) 医師調査と市民調査の比較：医師と市民との間に医師・製薬企業関係に対する許容度の差異が存在するか

3. 研究の方法

(1) 医師調査

2021年の1月から3月にかけて、日本全国の内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、精神科、眼科の医師を対象に郵送による調査を実施した。大学病院で勤務している医師、退職した医師、休職中の医師、また病院で管理職についている医師は調査対象から除外した。

(2) 市民調査

一般市民1,000人を対象に、横断的、自記式、匿名のインターネットパネル調査を実施した。調査の実施はクロスマーケティング株式会社に委託した。日本在住で18歳以上、日本語でアンケートに回答できる能力を持ち、かつ医療従事者でない者を対象とした。

(3) 医師調査と市民調査の比較

医師調査と市民調査における医師・製薬企業関係に対する許容度の差異について統計学的に検証した。

4 . 研究成果

(1) 医師調査

参加者は 1636 名で、回収率は 63.2%であった。

医師の殆どが製薬会社の MR と対面で会っていた (78.8%)、一方、職場外で食事を提供される医師は少数であった (4.5%)。

MR は医師の生涯教育において重要な役割を果たしていると思われる (66.1%)、新薬についての正確な情報を提供していると考えられていた (74.2%)。

MR らの贈り物の適切さについては意見が分かれていた。殆どの医師が、企業から提供される文房具や食事は処方行動に影響を与えないと考えていた (それぞれ 89.7%、75.8%)。

MR からの贈り物に対して肯定的な態度を示す予測因子として、男性、整形外科専門 vs 内科、MR との交流が多いこと、MR からの情報の価値に対する肯定的な態度、MR との会合を禁止するルールがないことが同定された。

(2) 市民調査

1000 人の参加者の平均年齢は 44.8 歳 (標準偏差 18.3) で、48%が女性であった。

参加者の多くは、医師と MR の特定の関係について認識していなかった。

医師が自身の職場での薬の説明会に出席すること、企業から文房具や医学の教科書を受け取ることは、職場外での食事の提供を受けることに比較して一般市民の許容度は高かった。

参加者の多くは、製薬企業のプロモーション活動への医師の関与は処方内容に影響を与える、医師の大半が MR から文房具や食事の提供を受けていると考えていた。

自身の主治医と製薬企業との関係を知りたいかどうかについては意見が分かれていた。

医師への高い信頼度と関連する要因として、65 歳以上、かかりつけ医がいること、健康状態が良好であること、製薬企業のプロモーション活動への医師の関与に対して許容的な態度、医師が MR からの贈り物を受け取っていないと信じていることが同定された。

(3) 医師調査と市民調査の比較

医師と比べて、一般市民は製薬企業のプロモーション活動への医師の関与に対する認知度が低く、医師・製薬企業関係に対してより許容的であった。一方、医師と比較して一般市民は、医師・製薬企業関係が医師の処方内容により影響を与えていると考えていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Saito Sayaka, Mukohara Kei, Shimomura Kazuhiro, Murotani Kenta	4. 巻 18
2. 論文標題 Changes in Japanese physicians' relationships with the pharmaceutical industry between 2008 and 2021: A national survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0286339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0286339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤さやか, 向原圭, 室谷健太, 下村一景
2. 発表標題 医師を対象とした医師・製薬企業関係に関する調査研究：2008年から2021年における変化
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤さやか, 向原圭, 室谷健太, 下村一景
2. 発表標題 医師と製薬企業の関係に対する一般市民の捉え方と医師への信頼
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齋藤 さやか (Saito Sayaka)	国立病院機構霞ヶ浦医療センター・総合診療科	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	下村 一景 (Shimomura Kazuhiro)	愛知県がんセンター・薬剤部 (83901)	久留米大学大学院医学研究科・バイオ統計学
研究協力者	室谷 健太 (Murotani Kenta)	久留米大学・バイオ統計センター (37104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関